



平成 27 年 3 月 23 日

鎌倉市教育長 安良岡 靖史 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達 文宏
同 神奈川地域会 代表 飯田 善彦



旧町立図書館について、解体計画の即時停止と保存利活用を求める要望

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。
鎌倉市におかれましては日頃より文化の継承に尽力されていることに、敬意を表します。また、弊会の活動にも格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

このたび、御成小学校正門（御用邸門）・講堂と並ぶ、昭和初期の近代建築 旧町立図書館 の解体計画が公になりました。当協会は、当該建築物の建築的、歴史文化遺産的価値から解体計画の即時停止と保存利活用を要望致します。

この図書館は、「鎌倉同人会」理事であった間島弟彦氏逝去後の寄付をもとに昭和 11 年に建てられました。また震災後の鎌倉国宝館も間島氏の寄付によって建てられております。

この図書館は、建物の意匠に近代建築物としての文化的価値が認められ、保存状態もよく、保存活用することの検討に値する建築物であります。また外観は、瓦屋根と縦長の窓が並んでいる和洋折衷様式で、外観の後年の変更は若干あるものの、創建時の姿を良く留めています。但し、維持管理の不備から外壁のモルタルが剥落している所も見られ、早急な修理が必要です。室内は、階段手摺や内壁のデザインが簡素なアールデコ風になっているなど、昭和初期の図書館の様相をそのまま残しています。

この様に、意匠的にも構造的にも優れた建築物である図書館は、鎌倉の歴史のロマンに触れることのできる貴重な空間であり、耐震改修とともに内外装の修復を行えば、今後も長期にわたって市民に愛される建築として存続できると思われまます。

また御成小前の通りは、御成小正門の左右に旧講堂と旧町立図書館が並び、三つの建造物がかつての別荘地時代の景観を偲ばせています。こうした街並景観は今や鎌倉市内でここ以外には見

る
事が難しくなっており、貴重な街並景観遺産であります。

このような文化の継承を考えつつ、一般市民・専門家・行政合同の検討委員会を立ち上げて、これを活用する可能性を是非とも今一度再検討頂きたく、ここに要望する次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会並びに同神奈川地域会は、そのために出来る限りの協力をさせて戴きたく存じます。

敬具